

アレルギー疾患医療提供体制の 確保について

～千葉県アレルギー疾患地域基幹病院との連携～

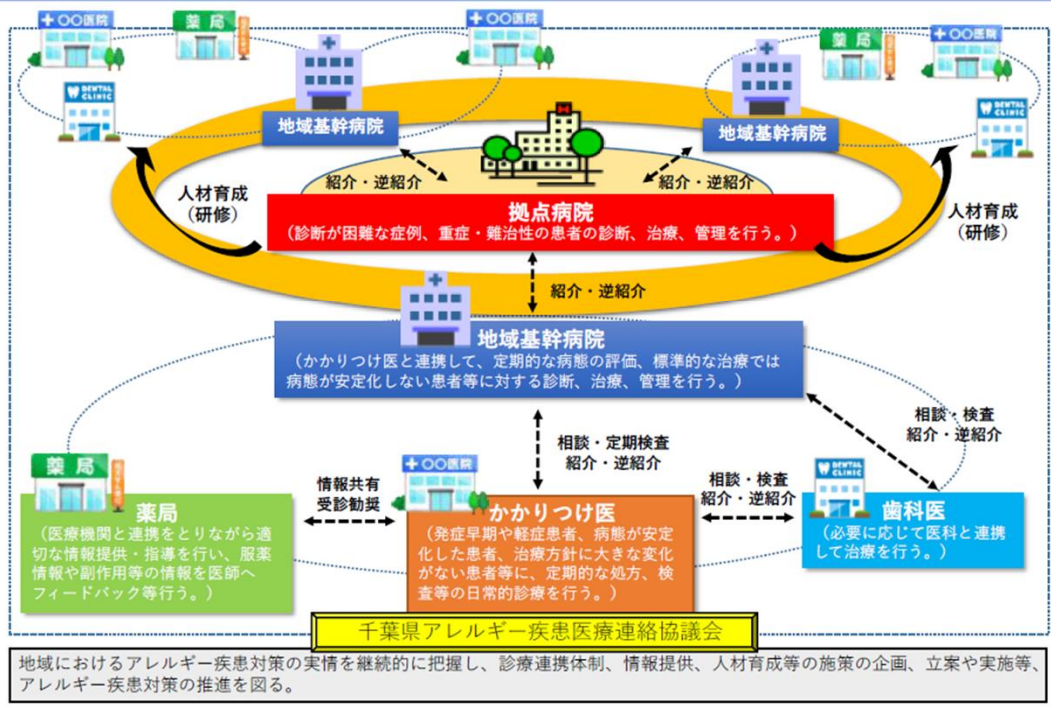
令和 7 年 1 1 月 4 日（火）
千葉県健康福祉部疾病対策課

アレルギー疾患医療提供体制の確保

地域基幹病院の役割

- ①かかりつけ医と連携して、定期的な病態の評価、標準的な治療では病態が安定化しない患者等に対する診断、治療、管理を行う。
 - ②拠点病院が実施する事業に参加・協力する。
- (千葉県アレルギー計画より抜粋)

本県におけるアレルギー疾患の医療提供体制について (イメージ図)



(令和7年7月末現在)

	医療機関名	選定日	医療圏
1	千葉県こども病院	令和元年11月	千葉
2	千葉市立海浜病院	令和元年11月	
3	東京ベイ・浦安市川医療センター	令和元年11月	東葛南部
4	国際医療福祉大学市川病院	令和元年11月	
5	順天堂大学医学部附属浦安病院	令和元年11月	
6	松戸市立総合医療センター	令和元年11月	東葛北部
7	医療法人社団協友会 柏厚生総合病院	令和元年11月	
8	医療法人徳洲会 野田総合病院	令和7年2月	
9	独立行政法人国立病院機構 下志津病院	令和元年11月	印旛
10	成田赤十字病院	令和元年11月	
11	東邦大学医療センター佐倉病院	令和元年11月	
12	国際医療福祉大学成田病院	令和3年2月	香取・海匝
13	総合病院国保旭中央病院	令和元年11月	
14	東千葉メディカルセンター	令和元年11月	山武・長生・夷隅
15	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	令和元年11月	安房
16	国保直営総合病院君津中央病院	令和元年11月	君津
17	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	令和元年11月	市原
18	千葉県循環器病センター	令和元年11月	

【参考】令和6年度アレルギー疾患医療連携体制ネットワーク会議について

(令和6年度千葉県アレルギー疾患医療連絡協議会 資料から抜粋)

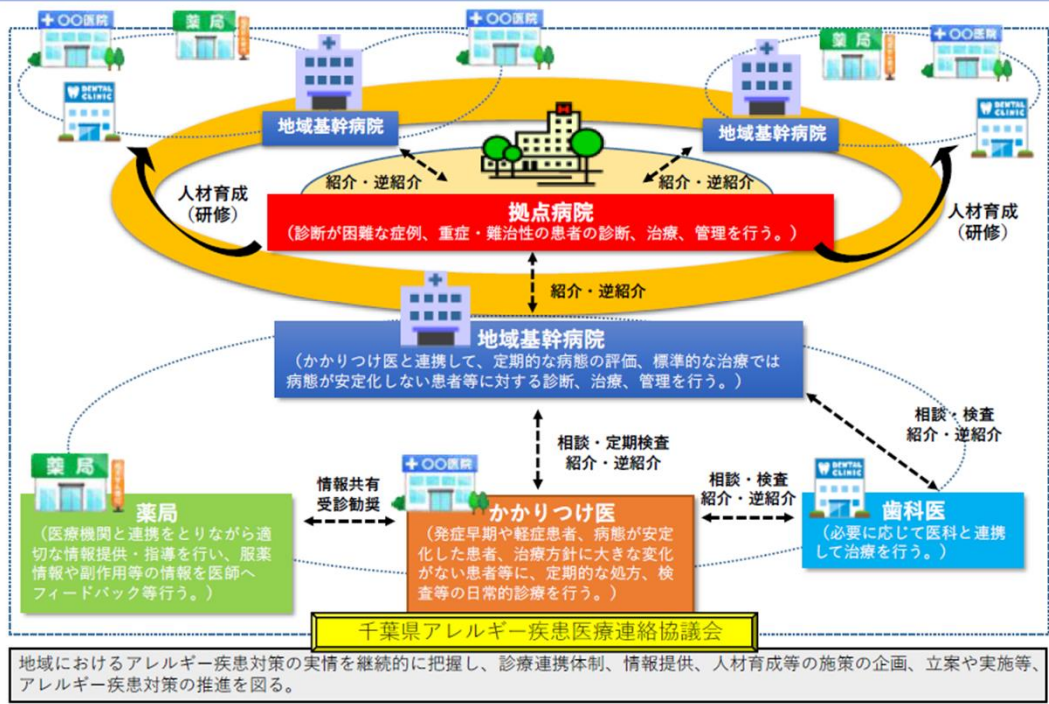
	主な意見・課題等	参考：「令和3年度 アレルギー疾患地域基幹病院 アンケート調査概要」	千葉県アレルギー疾患対策推進計画 基本的施策	千葉県アレルギー疾患対策推進計画 施策内容
1	現場では食物アレルギーの知識を持っている栄養士さんを地域で繋ぐことが難しい		➤ <u>専門的な知識の及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成（第2節）</u> ➤ <u>アレルギー疾患に関する相談等に携わる職種の育成（第3節）</u>	➤アレルギー疾患医療に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、その他医療従事者の知識や技能の向上に資する研修を、拠点病院と連携して推進。 ➤日頃アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い保健師、助産師、管理栄養士、栄養士、調理師等がアレルギー疾患への対応に関する適切な知見を得られるよう、拠点病院と連携して研修会の開催や助言等を行う。
2	負荷試験をやった子どもたちが地域で栄養指導を受けることが難しい			
3	PAE やCAI の有資格者がいると臨床がレベルアップする為、育成、スキルアップが重要	【医師以外の医療従事者の患者教育の必要性】 内科、小児科、皮膚科において必要である、どちらかといえは必要との回答が多かった。		➤国が開催する研修会や、アレルギー関連団体が主催する講習会等への参加による自己研鑽を促すため、各関係機関を通じて広く参加の呼びかけを行う。
4	周りに専門医がいないため、紹介で基幹病院に来た患者さんを地域の医療機関に戻すことが難しい	【マンパワー】 専門医が少ないことや患者指導のできるスタッフも少ない 【情報共有】 必ずしも十分でない。 【システム】 多様なアレルギー疾患を持つ一人の患者を、診療科横断的に診られるようなシステム作りが大切	➤ <u>医療機関の整備等（第2節）</u>	➤定期的に専門医による病態の評価が必要な患者や、診療所や一般病院での標準的な治療では病態が安定化しない重症及び難治性の患者等に対する、かかりつけ医、地域基幹病院、拠点病院の間での診療連携体制の構築を拠点病院と連携して推進。 ➤アレルギー疾患医療に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、その他医療従事者の知識や技能の向上に資する研修を、拠点病院と連携して推進。
5	移行期に関しては、小児科の専門医と成人科の専門医の両方がいないと上手く移行出来ないところが問題		➤ <u>専門的な知識の及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成（第3節）</u> ・アレルギー疾患に係る調査・分析（第4節）	
6	小児科の先生がかなり抱えている現状があるのだろうということが想定される			

アレルギー疾患地域基幹病院（再掲）

地域基幹病院の役割

- ①かかりつけ医と連携して、定期的な病態の評価、標準的な治療では病態が安定化しない患者等に対する診断、治療、管理を行う。
 - ②拠点病院が実施する事業に参加・協力する。
- （千葉県アレルギー計画より抜粋）

本県におけるアレルギー疾患の医療提供体制について（イメージ図）



（令和7年7月末現在）

	医療機関名	選定日	医療圏
1	千葉県こども病院	令和元年11月	千葉
2	千葉市立海浜病院	令和元年11月	
3	東京ベイ・浦安市川医療センター	令和元年11月	東葛南部
4	国際医療福祉大学市川病院	令和元年11月	
5	順天堂大学医学部附属浦安病院	令和元年11月	
6	松戸市立総合医療センター	令和元年11月	東葛北部
7	医療法人社団協友会 柏厚生総合病院	令和元年11月	
8	医療法人徳洲会 野田総合病院	令和7年2月	
9	独立行政法人国立病院機構 下志津病院	令和元年11月	印旛
10	成田赤十字病院	令和元年11月	
11	東邦大学医療センター佐倉病院	令和元年11月	
12	国際医療福祉大学成田病院	令和3年2月	香取・海匠
13	総合病院国保旭中央病院	令和元年11月	
14	東千葉メディカルセンター	令和元年11月	山武・長生・夷隅
15	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	令和元年11月	安房
16	国保直営総合病院君津中央病院	令和元年11月	君津
17	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	令和元年11月	市原
18	千葉県循環器病センター	令和元年11月	

東京女子医科大学附属八千代医療センター

千葉県アレルギー疾患医療拠点病院 令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画

千葉大学医学部附属病院
アレルギーセンター



昨年度よりの新規事業・1

基幹病院との協力によるアレルギー疾患対策研修

目的：基幹病院を中心として、アレルギー疾患診療の質の均てん化を図るためにコメディカルの指導技術の質の向上を目的とした

対象：基幹病院周辺の医療機関及び調剤薬局等の医療従事者を対象

内容：小児の吸入療法

アトピー性皮膚炎の軟膏療法とスキンケア



研修後アンケート

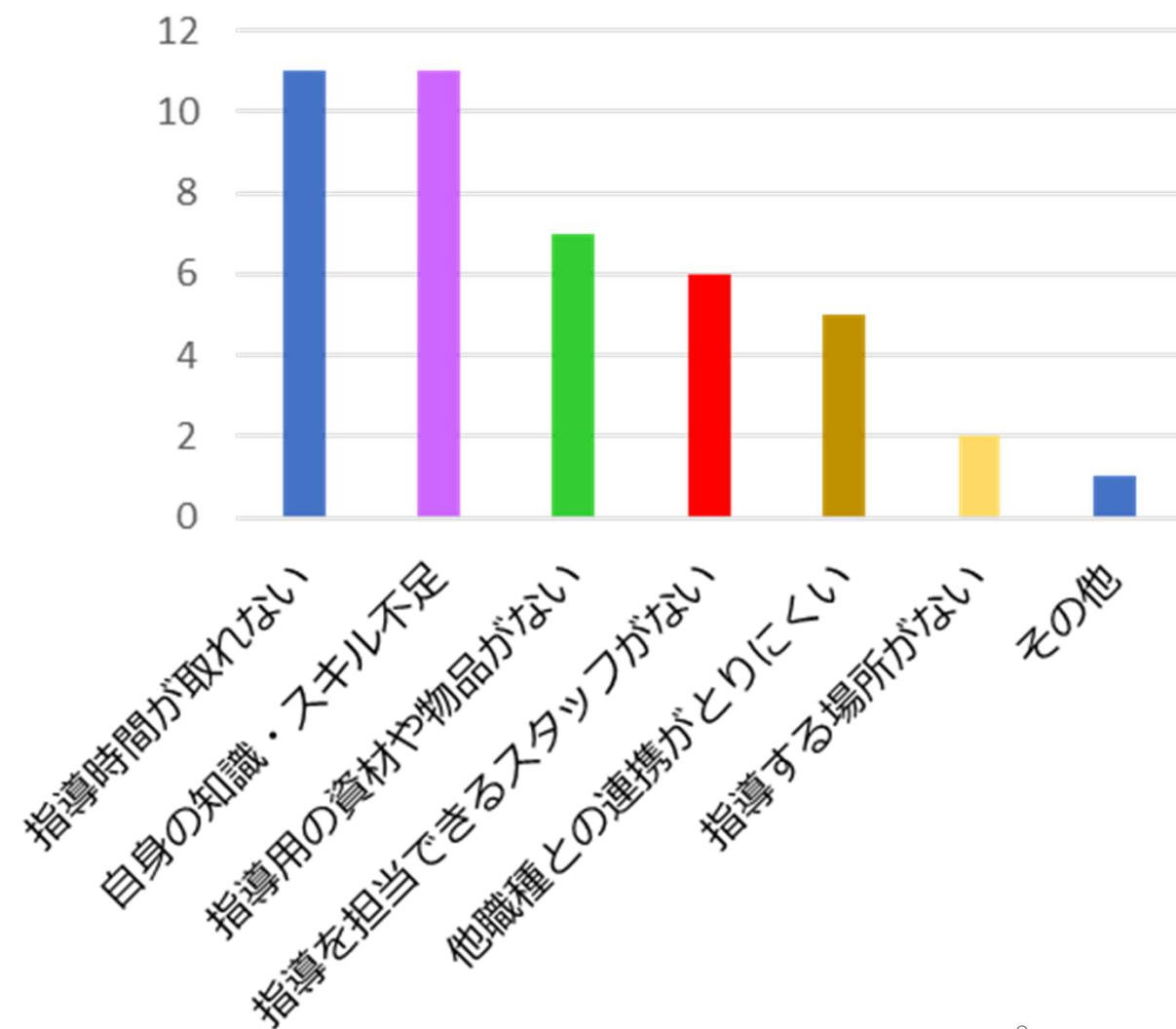
- 参加者：23名（医師1名 看護師22名）
- 総合病院 8名 クリニック 12名 その他 3名
- 所在地 四街道市 8名 千葉市 13名
東金市 1名 富里市 1名

感想

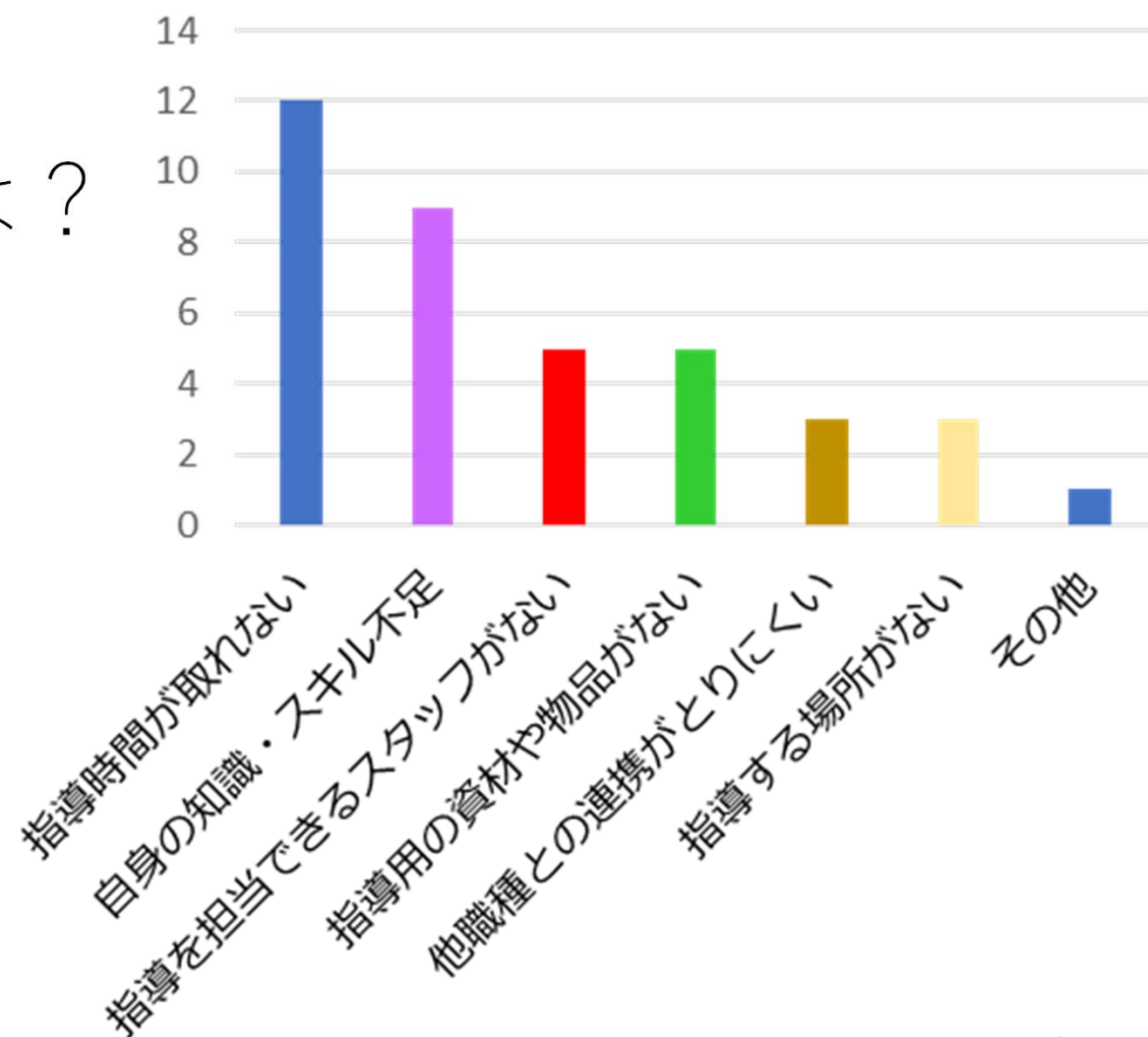
- 間違った吸入方法で指導していた可能性があったので勉強になった
- 実技をしつつグループで話しながらできて有意義であった
- 吸入やスプレーを使用したことがなかったので使ってみて分かりやすかった
- 実際に体験することで泡立てや軟膏の適切な使用量がわかった
- 実際に体験しながら学べたので指導に活かそう



吸入指導を行う上で
大変なことは？



スキンケア指導を行う上で大変なことは？



今年度のハンズオンセミナー開催

- ・君津中央病院・千葉大学病院で開催

令和7年度千葉県アレルギー疾患医療拠点病院事業
アレルギー疾患対策研修会
実技指導ハンズオンセミナー

吸入指導やスキンケア・軟膏塗布の指導のコツを会場に体験しながら学べるセミナーです。

2025年8月23日(土) 14時～16時(受付開始13時45分)

場所：君津中央病院 4F 講堂
対象：医師、看護師、薬剤師、吸入指導に携わる医療従事者
定員：先着30名(申込締め切り8月15日)
費用：無料 申込方法：右下QRコードより登録ください

① 講演
「小児の気管支喘息とアトピー性皮膚炎」
千葉大学医学部附属病院アレルギーセンター 医師
下条 直樹 先生

② 実技体験
「やって納得!子どもの吸入指導」
千葉大学医学部附属病院アレルギーセンター 薬剤師(PAE/CAI)
石黒 奈緒 先生


③ 実技体験
「スキンケアの実際と伝え方」
つばきこどもクリニック 看護師(PAE/CAI)
須藤 綾子 先生

・アレルギーエデュケーター(PAE)は、日本小児臨床アレルギー学会のアレルギー疾患の専門家として認められた看護師・薬剤師・管理栄養士です。
・アレルギー疾患療養指導士(CAI)は、喘息やアトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を有し、患者さんや家族への指導スキルを兼ね備えたメディカルスタッフです。

君津中央病院の駐車場は無料でご利用いただけます。

主催：千葉大学医学部附属病院アレルギーセンター
問い合わせ先：allergiescenter-admin@chiba-u.jp
協力：国保直営総合病院君津中央病院

申込みフォーム
<https://forms.office.com/r/NW6A9ztUJD8>



令和7年度千葉県アレルギー疾患医療拠点病院事業
アレルギー疾患対策研修会
吸入指導ハンズオンセミナー

喘息の長期管理で重要な吸入療法。上手な吸入指導のコツをお伝えします。会場にて様々な吸入デバイスをご用意し、参加者の皆様にも体験していただけるセミナーです。

2025年9月23日(火・祝) 10時～12時

場所：千葉大学医学部附属病院 セミナー室1,2
対象：医師、看護師、薬剤師、吸入指導に携わる医療従事者
定員：先着60名 費用：無料
申込方法：右下QRコードより登録

① 講演 10:00～10:30
「成人喘息の治療ー正しい吸入療法と自己管理ー」
千葉ろうさい病院 アレルギー・膠原病内科 医師
玉地 智宏 先生


② 実技体験 10:30～12:00
「吸入指導の実際 幼児～高齢者の使うデバイスを体験」
ブラーナクリニック 薬剤師(PAE/CAI/吸入療法エキスパート)
逸見 和範 先生

・小児アレルギーエデュケーター(PAE)は、日本小児臨床アレルギー学会のアレルギー疾患の専門家として認められた看護師・薬剤師・管理栄養士です。
・アレルギー疾患療養指導士(CAI)は、喘息やアトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を有し、患者さんや家族への指導スキルを兼ね備えたメディカルスタッフです。

公共交通機関を利用ください。
セミナー参加者の駐車場や、割引サービスはありません。
詳しい会場案内は裏面をご覧ください。

主催：千葉大学医学部附属病院アレルギーセンター
後援：千葉県医師会
問い合わせ先：allergiescenter-admin@chiba-u.jpkk

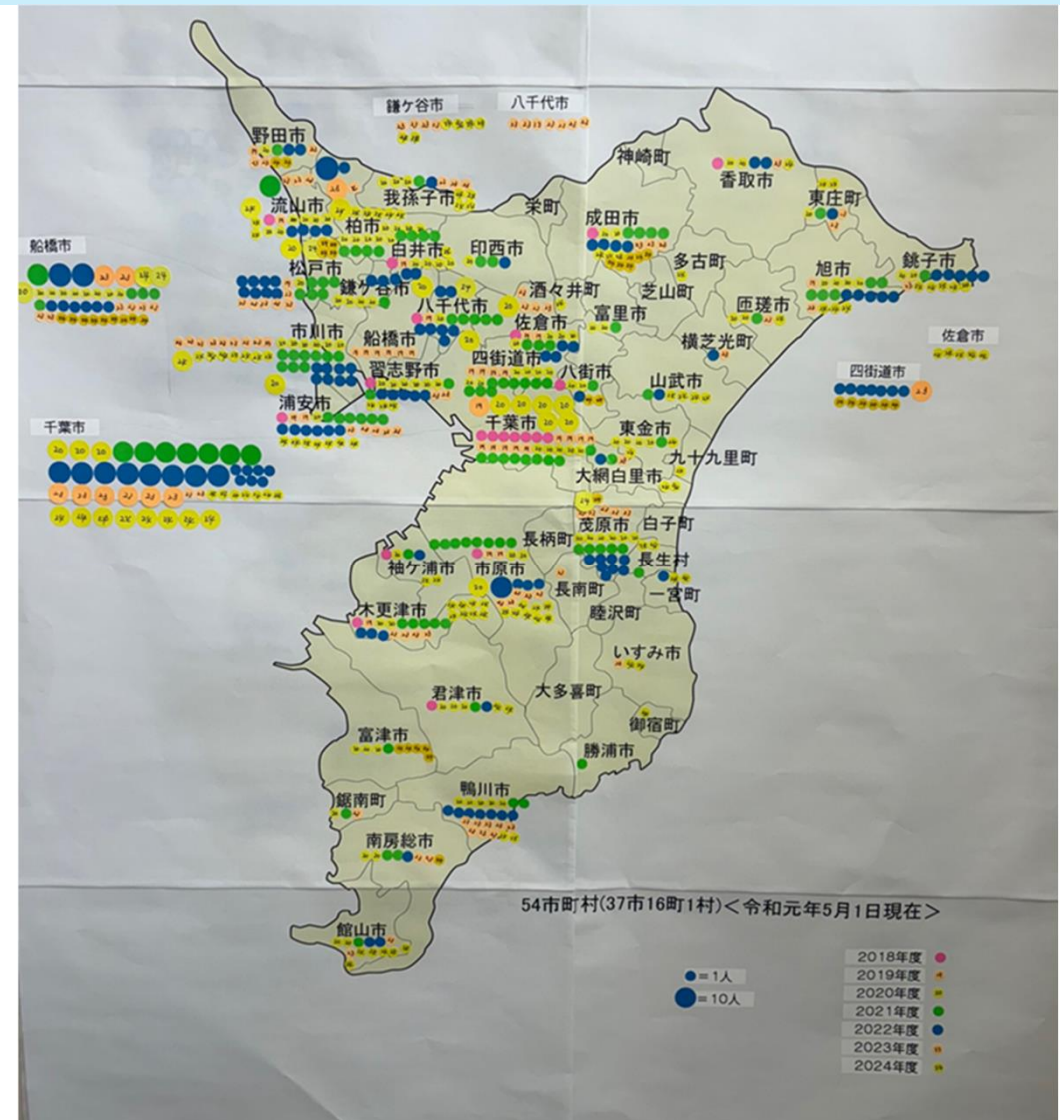
申込みフォーム
<https://forms.office.com/r/Bm8sXgJLGk>



専門的な知識及び技能を有する医師その他医療従事者の会議等の参加者数

【年度毎】

- ・「プライマリー診療のためのアレルギー研修会」及び「千葉県食物アレルギー診療連携ネットワーク会議」の参加者数



専門的な知識及び技能を有する医師その他医療従事者の会議等の参加者数

【複数年毎】

- ・ ピンク：2018年～2019年
- ・ 青：2020年～2022年
- ・ 緑：2023年～2024年

「プライマリー診療のためのアレルギー
研修会」及び「千葉県食物アレルギー診
療連携ネットワーク会議」の参加者数

